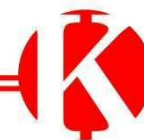




令和4年度

業務改善提案 入賞取組の概要





BEST KAIZEN AWARD 2022 【市民サービス部門】

取組名 (所属)	『「書かせない申請手続」による市民の負担軽減と職員の業務効率改善』 (駿河福祉事務所障害者支援課 支援係)
問題点 課題 取組内容	<p>【問題】</p> <ul style="list-style-type: none">●日常生活用具・補装具購入費助成等の申請時、申請者は住所、氏名、障害者手帳情報等、多くの項目を申請書に手書きで記入する必要があり、1件あたり約5分の時間を要する。●高齢者や障害者本人が記入する場合は特に負担が大きい。また、記入時間の分だけ窓口の対応時間も長くなる <p>KAIZEN 申請者情報を反映した申請書を出力し、申請者は署名のみでOKに！</p> <p>【内容】</p> <p>福祉システムの画面に表示された申請者情報(氏名や手帳情報等)を、エクセル上の貼付用シートにコピー&ペーストすると、必要な情報が申請書に反映され、出力できるようにした。</p>
取組結果 ・ 主な効果	<ul style="list-style-type: none">✓ 手書きする必要がなくなったことで、身体的負担を軽減✓ 窓口の混雑解消につながり、お客様の受付開始までの待ち時間を削減✓ 駿河区だけでも、約12時間/月の業務時間短縮✓ 申請書の記入間違いがなくなり、正確な申請書の作成が可能に✓ 葵区及び清水区の障害者支援課にも水平展開
評価	<p>○窓口に来られた市民へのサービス向上(時間的・身体的負担の軽減)や、職員の作業効率の向上(業務時間短縮、申請書の記入誤りの減少)等改善効果が大いに図れ、市民と職員双方に効果のあるよい取組である。間接的に窓口の混雑解消につなげたことも素晴らしい。</p> <p>○窓口にお見えになる方は高齢者、障がい者、介護をしながらの方が多いため、より効果が大きい</p> <p>○他の分野の窓口にも広げていけそうな取組であり、費用をかけずにエクセルを活用した簡単な方法で取り組んでいる点においても、他業務へも展開可能な好事例。</p>

エクセルシート反映イメージ

様式第1号 (第4条関係) [表] 日常生活用具費助成申請書

(宛先) 静岡市長 令和5年1月16日

(申請者) 静岡市駿河区南八幡町10番40号
 (住所) 静岡市駿河区南八幡町10番40号
 (氏名) フリガナ () 姓 名 静岡 太郎
 対象者との続柄 本人
 (電話) 999-999-9999

下記のとおり日常生活用具費の助成申請をいたします。

対象者	住所	静岡市駿河区南八幡町10番40号			
	フリガナ氏名	静岡 太郎	10歳以上	19歳未満	難病
	生年月日	平成11年1月1日	性別	男	電話
	999-999-9999				999-999-9999
身体障害者手帳番号	静岡市	999999	号	平成12年1月1日	
療育手帳番号			号		
障害名	内部] 直腸増殖障害		等級	1級	
疾患名	日常生活用具名				
	特殊マツ	入浴補助	請求保護欄		
	申請する業者				
	セガミホームヘルスセンター				
収入状況等に関する調査について	世帯主氏名	対象者との関係	(承諾します・承諾しない)		
	世帯員氏名	対象者との関係	(承諾します・承諾しない)		
	世帯員氏名	対象者との関係	(承諾します・承諾しない)		
	世帯員氏名	対象者との関係	(承諾します・承諾しない)		
	世帯員氏名	対象者との関係	(承諾します・承諾しない)		
該当する所得区分	生活保護 ・ 低所得 ・ 一般 ・ 一定所得以上				
生活保護への移行手続等に関する同意	<input type="checkbox"/> 生活保護への移行手続 (当事負担減免措置) を希望します。				
介護保険	申請済み ・ 未申請 ・ 申請中 (年 月) 該当 (要支援・要介護・1・2・3・4・5) 非該当 介護保険該当者の方は、申請項目によって介護保険の料率・給付制度が優先されます。各福祉事務所の高齢介護課にご相談ください。				
備考					

① 器具番号入力

用具1	5
用具2	6
用具3	10
用具4	

② 業者番号入力

業者名	1
-----	---

③ 電話番号入力

999-999-9999

入力フォーム

入力番号	用具名	入力番号	業者名
1	ストーマ (消火器)	1	セガミホームヘルスセンター
2	ストーマ (厚紙)	2	ワタキューセイキア
3	紙おむつ		
4	地震防災		
5	特殊マツ		
6	入浴補助		
7	入浴補助		
8	下着状		
9	移動・移		
10	認知保護		
11	介護用品		
12	介護用品		
13	ネプテ		
14	電気式た		
15	吸引器・		
16	パルスオ		
17	情報		
18	視覚障害		
19	視覚障害		
20	人工内耳用電池	20	
21	人工内耳用電池 (充電式)	21	

別表

「書かせない申請手続」エクセルシート (色付き箇所が記入不要になった項目)

- 福祉システムに表示された情報 (画面全体) を「貼付シート」にコピー&ペースト
- 申請者の住基情報や手帳情報が自動で申請書に反映
- その他の必要な情報 (用具名や業者名) は別表で附番した番号を入力フォームに入れるだけで申請書に表示 (タイプする手間を削減)
- 申請書を印刷後、申請者は内容を確認して署名するだけ



BEST KAIZEN AWARD 2022 【働き方改革部門】

取組名 (所属)	『7階フロアレイアウト最適化による共有ミーティングスペースの創設』 (都市計画部)
問題点 課題 取組内容	<p>【問題】</p> <ul style="list-style-type: none">●どの所属も手狭であり、緑地政策課は通路部に張り出すなど、課単位による部分的な変更が限界を迎えていた。●暫定的に運用していたミーティングスペースは手狭で、利用予約方法も非効率 <p>KAIZEN フロア全体でレイアウトを見直し、共有ミーティングスペースを確保 市民来庁の多い課はエレベータの近くにし、来庁者の導線短縮</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">●不用品の処分、棚の積み上げと専用スペースへの集約を通じて、各課が少しずつスペースを提供し、広い共有スペースを確保し、使用予約もグループウェアで管理●一般来庁者の多い窓口をエレベーターホール前に移動、局長室前通路への業者の立ち入り防止
取組結果 ・ 主な効果	<ul style="list-style-type: none">✓ 6～10人程度の、これまで会議室を要した打合せが気軽に出来、1つの事業に複数課連携して取り組む機会が増加✓ 会議室が少ない静岡庁舎において有効に機能、打ち合わせや来客用に会議室を探す手間が減少✓ 来庁者への窓口案内が容易になり、サービス向上につながる
評価	<ul style="list-style-type: none">○同一フロアの各課が「ワンチーム」となって、協力・連携した局内横断的な好事例。○共有会議スペースの設置による業務効率化や、来庁者に優しいフロア配置やセキュリティ環境の改善、複数の相乗効果を得た事は大変評価できる。○共通スペースの利用予約を紙媒体からデスクネットに移すことで、情報を共有できるとともに、効率的な運用も図れている。○土砂対策チームの執務室としての利用など、イレギュラー対応に備える余力を作り出した取組。

7階フロアと共有部 を使いやすく変えました！（都市計画部）

フロアレイアウトの最適化効果1



さらに、フロア全体にこんな効果も・・・

- ▶局長室前は職員ONLY通路で情報漏えい防止！
- ▶共通書架スペースに鉄庫集約して課内スッキリ！
- ▶各課の不要品処分がはかどりフロア内スッキリ！
- ▶フロア変更費用は各課の消耗品等の節約で捻出！
- ▶洗練された空間でやる気UP！ など

研修利用の様子




フロアレイアウトの最適化効果2



より人に優しいフロアに。




BEST KAIZEN AWARD 2022 【経費削減部門】

取組名 (所属)	『災害発生流木を野外教育の一環として有効利用』 (土木事務所 工事係)
問題点 課題 取組内容	<p>【問題】 ●台風15号により何百本の流木が山から河川に流れ、両河内地区だけで200m³を超え、その処分に膨大な費用が必要となった。</p> <p>KAIZEN 発想を転換し、少年自然の家で使用する薪として活用</p> <p>【内容】 ●2年後にオープンが予定されている少年自然の家で使用する薪として活用するため、教育委員会と薪置場のスペースを提供してもらえるよう調整</p> 
取組結果 ・ 主な効果	<ul style="list-style-type: none">✓ 少年自然の家で使用する薪として再利用することで、小学生への自然災害の学習となる✓ 土砂災害のメカニズムなどを学ぶ一環でSDGs15「陸の豊かさを守ろう」の一助になる✓ 地域内で処理することで、廃棄物の処分費や運搬費及びこれに付随するエネルギー削減✓ 流木のうち100m³を利用できるとして 600千円 の処分費削減
評価	<p>○台風という出来事や、流木の処分費がかかるなど多くのマイナス要素を、資源の有効活用及び災害の学習など未来に向けたプラス要素に転じた、経費削減の幅を広げる効果的な活動。</p> <p>○流木は処分するものとの考え方に柔軟性を持たせ、廃棄物の有効利用についてアイデアを出し、局間連携による多角的な視点で検討し、それを実現まで結び付けている。</p> <p>○経済面や環境面、教育面などいくつものメリットを生み出し、市長表彰に値する。</p>



BEST KAIZEN AWARD 2022 【情報発信部門】

取組名 (所属)	『オンライン開催による出張動物園ガイドの効率化』 (日本平動物園 動物病院係)
問題点 課題 取組内容	<p>【問題】</p> <ul style="list-style-type: none">●毎年9～11月に市内小学校20校以上から出張動物園ガイドとして講話の依頼が集中する。今年度は週4日間、動物病院係の獣医師が1名勤務体制のため、学校に行くと半日急患等に対応できない。●来園の場合も、コロナ対策で1コマの人数を減らしており、1コマを2、3回に分けるため半日要する。●学校での授業に合わせて同時期に依頼が集中するため、連日対応となり、通常業務に支障が出る <p>KAIZEN 学校に行かずに、ZOOMによるオンライン開催に変更</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">●学校のオンライン環境を活用し、ZOOMのオンライン開催とする。●会議設定マニュアルの作成、事前に接続テストを兼ねた打ち合わせを行う●ガイド日は基本獣医師2名出勤とし、動物の治療のために授業を中断することのないよう配慮 
取組結果 ・ 主な効果	<ul style="list-style-type: none">✓ 送付メールのフォーマット化、チェックシートやマニュアルの作成で事前準備の手間を効率化✓ 当日ガイドにかかる時間も、対面と比較し大幅に短縮✓ 獣医師が1名減の状態でも例年とおりの受け入れが可能に✓ これまで利用が困難であった遠方の学校も利用可能に
評価	<ul style="list-style-type: none">○すでにある環境を利用し、受入側の負担を軽減しつつ、地理的な条件やコロナの感染状況等に関わらず、学校が希望する教育活動を可能とした意義深い取組。○獣医師欠員による人手不足の中、獣医師としての本来業務も小学校への教育普及業務も、どちらも縮小せず解決したことが素晴らしい。○接続テストを兼ねた打合せ、会議設定のマニュアル化なども、効率化を図るよい方策。○市外や県外への発信も可能となる他、新規及びリピートが期待され、利用者の発掘につながる。



GOOD KAIZEN AWARD 2022【市民サービス部門】

取組名 (所属)	『一人ひとりに合わせた支援情報を提供できる「被災者支援窓口」の実施』 (葵区地域総務課 区民生活係)
問題点 課題	【問題点・課題】 ●台風15号による被災後、鳴りやまない市民からの電話対応に追われる中、土砂の撤去から自宅の修繕など被災者の様々な困りごとに対応するため、支援メニューをもれなく収集し、職員個々のスキルによらず誰もが的確な案内をする必要がある。
取組内容	KAIZEN 困りごとから必要な支援を逆引きできるシステムを構築、真に必要な情報のみを提供 【内容】 ●市、県、民間などから支援メニューを幅広く収集し、困りごとの内容ごとに分類。 ●市民から状況を聞き取りチェックを入れていくと対象となる可能性のある支援メニューが一覧で提示されるシステムをエクセルで構築！ ●相談者ごとに抽出した支援メニューを情報提供
取組結果 主な効果	✓ 自身の困りごとに対応する情報のみがもらえるため、わかりやすいと好評 ✓ 資料を事前に冊子印刷せず、必要な情報のみを随時印刷することで、時間と紙資源の節減 ✓ 駿河区・清水区にも随時共有し、全市レベルでの被災者への情報提供を実現 ✓ オーダーメイドのきめ細かな対応により、当窓口の対応に関する苦情は0件
評価	○緊急を要する被災対応の最中に、市民目線で考え7日という短期間で、開発経費0円で被災者支援システムを構築した実績が素晴らしい ○当該システムの利用によって、被災者にとって本当に必要な情報のみが提供され、効率的かつ的確な支援を行うことが出来る様になった事は、被災者・職員双方の負担軽減に寄与する取組。 ○市組織以外も含めた多岐にわたる支援メニューの情報を収集するなど、被災し、疲弊した市民に寄り添った対応で多くの市民の不安を解消し、苦情ゼロに結びついた点が評価できる

被災者支援窓口運営システム

被災者の目線

- ・どんな支援があるのか
- ・自分はどんな支援を受けられるのか
- ・窓口はどこで、持ち物は何かが必要か
- ・何度も家を空けることは避けたい

被災者に寄り添うために

- 個々の被災の状況や、困りごとから利用できる可能性のある支援を、簡単に検索できる仕組みを作る
- 公的支援だけでなく、民間の支援まで幅広く情報を集め、提供する

- 項目をチェックするだけで、支援を抽出、一覧を印刷
- 別途支援ごとに詳細資料のお渡しも可能

開発したシステムで
93の支援を
被災者目線で
逆引き!!

被災者相談窓口 聞きとりシート

居住区 被災区 被災区 清水区

建物区分 住居(貸住) 住居(非居住)または非住居 非住居のみチェック 農地

被害 床上浸水 壊半壊 半壊以上 全壊 +該当項目すべてにチェック

臨時退避 死亡・障害を負った方がいる場合 被災記録書の発行・再調査依頼

くらし 住まい生活の困りごと ペットの相談 廃車・車検出

災害ごみ・土砂の除去 ボランティア要請 子どもがいる児童

資金相談 公的の貸付・借入支援・ローン相談 専門家相談

税・保険 税金相談 各種保険料(年金・健康・介護・生命保険等)相談

レコード抽出 抽出

- マニュアルを整備、今後の災害でも使える体制に

オーダーメイドの情報提供を実現

相談者の反応

- ・自分が使えそうな支援がわかった
- ・一覧になっていてわかりやすい
- ・これで前に進める



相談者のべ730人
窓口に対する苦情 0件

【支援提供機関】

- ・静岡市・静岡県・国
- ・年金事務所
- ・市社会福祉協議会
- ・商工会議所
- ・生命保険協会
- ・静岡県災害対策士業連絡会
- ・日本カーシェアリング協会

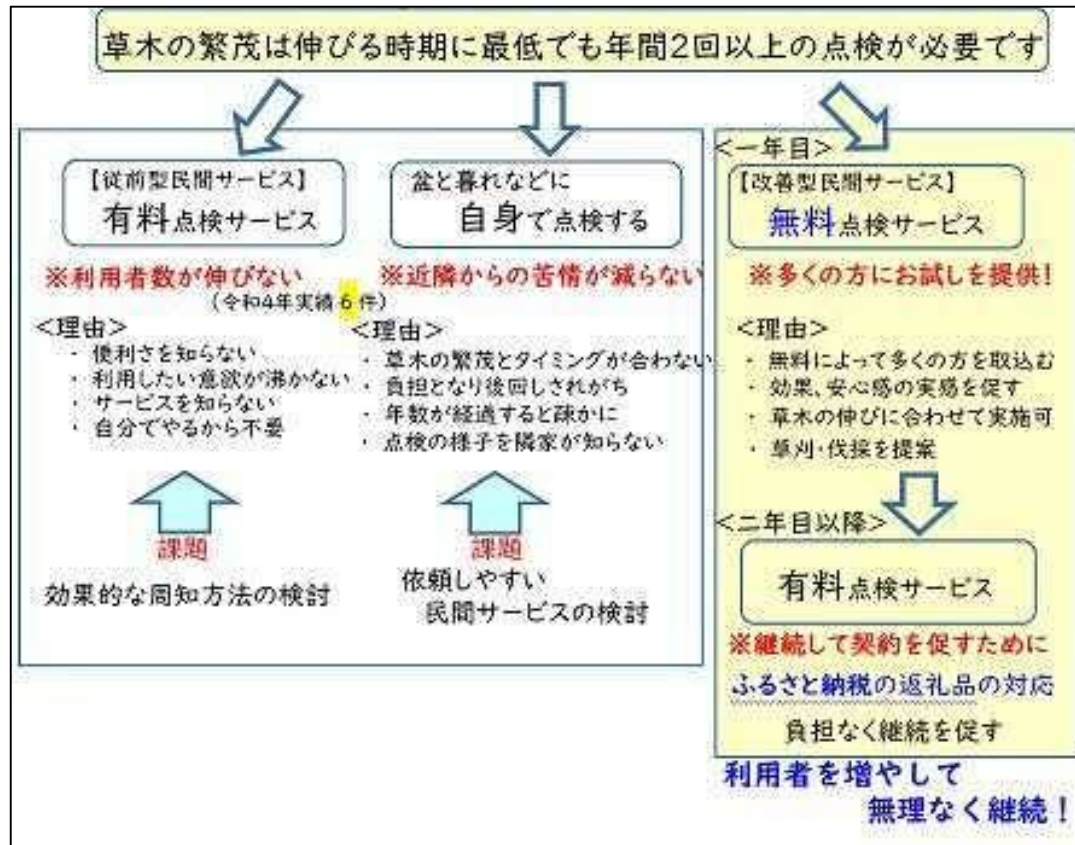


GOOD KAIZEN AWARD 2022【市民サービス部門】

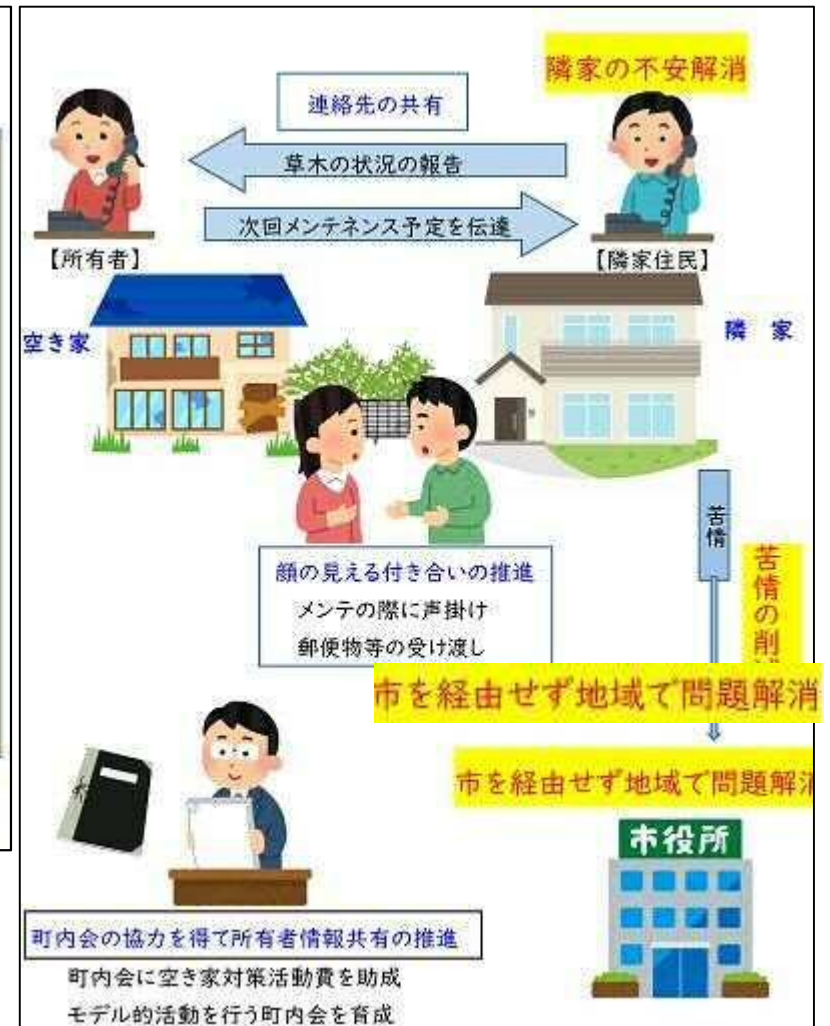
取組名 (所属)	『空き家苦情の事後対応型から、苦情が発生しない事前対応型へ』 (住宅政策課 空き家対策係)
問題点 課題 取組内容	<p>【問題点・課題】</p> <ul style="list-style-type: none">●年間120件の空き家に関する苦情を受付。●苦情を受け付けると、空き家所有者特定のため、登記情報や戸籍情報、相続人などの調査に1ヶ月以上掛かる場合もあり、多くの時間と人工が必要 <p>KAIZEN 苦情への改善ではなく、そもそも苦情が発生させない仕組みを実現！</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">①現在シルバー人材センターが行う有料空き家点検サービスを無料にすることで、多くの人に体験してもらう仕組みを構築②町内会に活動応援助成金を交付し、地域で連絡先を共有する仕組みを構築
取組結果 主な効果	<ul style="list-style-type: none">✓ 市に寄せられる苦情が減少 80件→0件✓ 空き家点検における不具合は、空き家所有者あてに連絡がいき、迅速な対応が可能に✓ 点検サービス申込情報を市が共有することで、空き家所有者の特定に要するコストの縮減✓ 苦情対応に要する約2人工分の業務軽減
評価	<p>○今後増加する空き家問題の対応策として、発生前の予防的対応方法を確立した全国的な先駆けとなる画期的な取組。問題が軽いうちに、課題を踏まえて管理していくという視点がよく、スキームもしっかりしており、効果が期待できる。</p> <p>○所有者の注意を喚起し、建物管理などにもつながるため、地域の不安が解消され市民サービスの向上がはかれる。</p> <p>○地域と空き家管理者と民間を繋ぐ方策は、官民連携となる事例として高く評価できる。 10</p>

本市の状況に即した（空き家に関する苦情の多くが草木問題で軽度である）全国でも先駆的な取り組み！！

苦情が発生しない仕組み1



苦情が発生しない仕組み2





GOOD KAIZEN AWARD 2022 【働き方改革部門】

取組名 (所属)	『市県民税年金特徴仮徴収分還付事務へのRPAの導入』 (納税課 納税推進係)
問題点 課題 取組内容	<p>【問題】</p> <ul style="list-style-type: none">●年金特徴仮徴収に係る還付事務において、毎年数千件(7月処理時約4,500件・9月処理時約1,500件)のシステムへの還付情報入力を係職員全員が時間外勤務等に対応●複数の職員が入力を行うため、支払日の入力誤りが発生 <p>KAIZEN デジタル化推進課や委託業者との連携で、金額計算・支払日の入力をRPAで自動化</p> <p>【内容】</p> <p>市税収納徴収支援システムへの還付情報入力(還付加算金計算・還付支払日の入力)をRPA導入により自動化、デジタル化推進課や委託業者と連携し、市税収納徴収支援システムの試験環境で検証を重ね、9月実施分から導入</p>
取組結果 ・ 主な効果	<ul style="list-style-type: none">✓ 支払日の入力誤りの皆減✓ 職員の入力 約40件/1H→ RPA:約180件/1H で作業時間を大幅削減✓ 来年は通年で130時間の作業時間(時間外勤務)の皆減見込み
評価	<ul style="list-style-type: none">○大幅な業務効率の改善、業務精度の改善を達成したことが素晴らしい○生み出された時間で他業務に従事でき明らかな働き方改善といえ市長表彰にふさわしい○同様の定型業務に汎用可能な取組を先駆的に実施している。○静岡市で実績が少ないRPAの導入による成功例として、他部署の業務にも波及することができ、今後導入を検討する際の参考事例となること。



GOOD KAIZEN AWARD 2022 【働き方改革部門】

<p>取組名 (所属)</p>	<p>『LoGoフォームの活用で 迅速な書類提出と双方の負担減を実現』 (幼保支援課 総務・事業者指導係、給付係、システム係)</p>		
<p>問題点 課題 取組内容</p>	<p>★コロナの休園報告 【問題】 ●園から市への提出や、書類の差替えに時間を要す ●提出書類のスキャン、データ変換も必要で非効率 KAIZEN LoGoフォームでエクセルの報告書を提出する方法に変更</p>	<p>★給付費の支払 【問題】 ●修正がある場合、文書便による再提出で時間を要す ●期限内に書類が揃わない KAIZEN LoGoフォームで請求書を提出する方法に変更</p>	<p>★コロナ感染者報告 【問題】 ●電話報告によるため、感染増加の際、職員の負担増 ●報告項目が多く、私立園の職員の負担も大きい KAIZEN 報告項目を精査し、LoGoフォームでの報告に変更</p>
<p>取組結果 主な効果</p>	<p>✓ 迅速な提出、即日の再提出が可能に ✓ スキャン、データ変換の作業時間 14時間の削減</p>	<p>✓ 全件期限内提出が実現 ✓ 提出状況が明確に ✓ 私立園の負担軽減 ✓ 支払作業の省力化</p>	<p>✓ 職員の事務負担の軽減 ✓ 報告項目の見直しで、私立園の報告に係る負担軽減 ✓ いつでも報告可能に</p>
<p>評価</p>	<p>○電子申請化されたことで、担当課だけでなく保育園の事務負担も軽減でき、保育士が子どもに専念できる時間が増えた結果園児や父兄に対しても利益がある。 ○既存のシステムを活用し、業務の効率化を図ったLoGoフォームの効果的な活用事例、専門的な知識がなくても活用でき、かつ事務削減効果も大きい。 ○行政の他の申請事務に波及でき、将来性が高い。</p>		



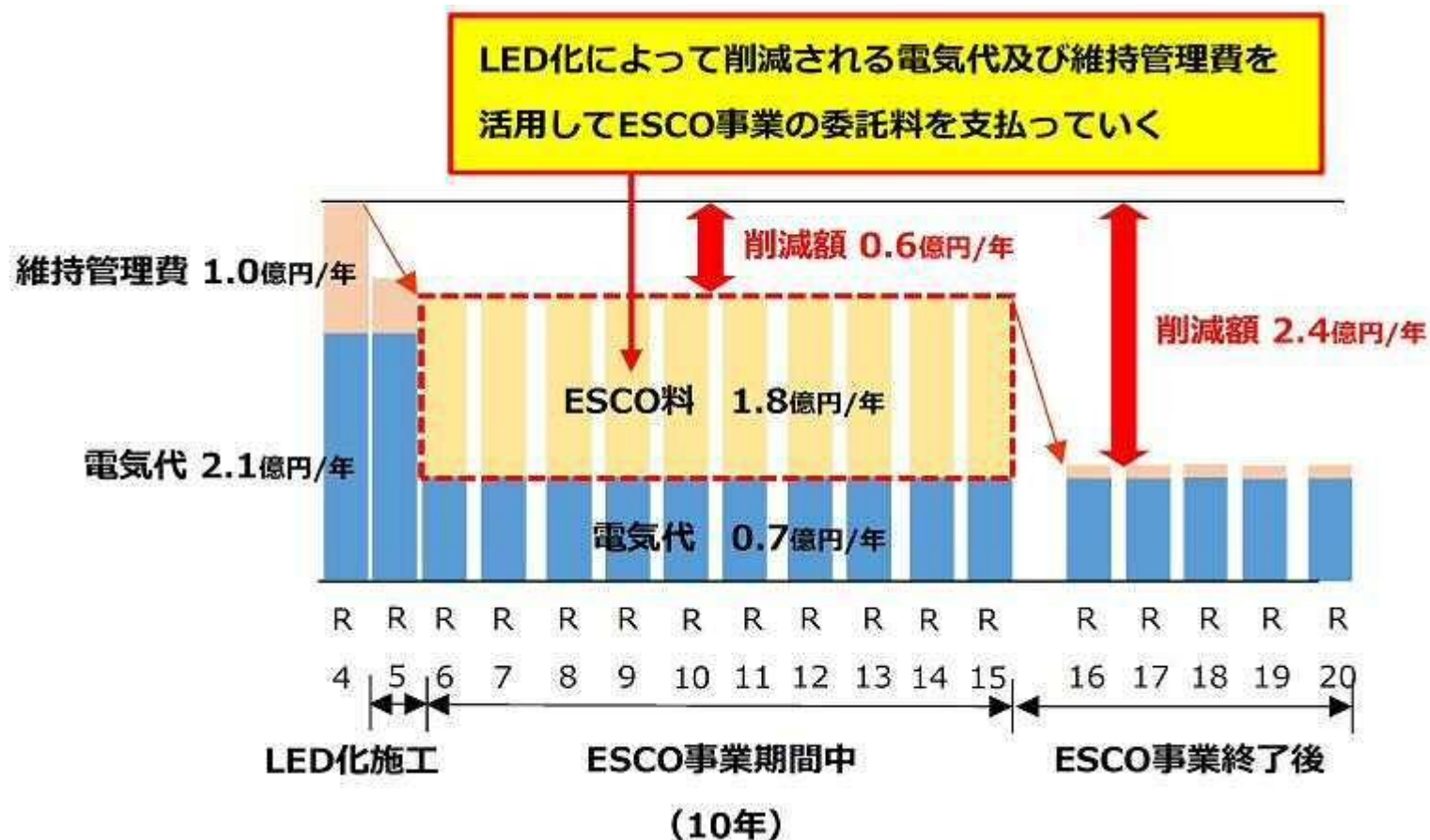
GOOD KAIZEN AWARD 2022【経費削減部門】

取組名 (所属)	『省エネ改修事業(ESCO事業)を導入し 全道路照明灯LED化の実現』 (道路保全課 維持計画第2係)
問題点 課題 取組内容	<p>【問題】</p> <ul style="list-style-type: none">●昨今の原油価格、物価高騰の影響で光熱費(電気代)の上昇は避けられず、早期にLED化を図り、必要経費を削減したいが、道路照明灯約11,000基の実現には多額の費用と時間を要する。●脱炭素先行地域に指定された本市において、環境負荷の低減が求められる <p>KAIZEN ①省エネ改修事業(ESCO事業)の導入で道路照明灯を一斉にLED化</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">●省エネ改修事業(ESCO事業)を導入し、事業者と長期契約(債務負担行為)を締結。●令和5年度中に約9,200基の道路照明灯を一斉にLED化 <p>※ESCO事業は、設計から施工、維持管理までを行う包括的な事業で、必要な経費は省エネ改修による電気代の削減費から賄うため、新たな財源を必要としない。</p>
取組結果 ・ 主な効果	<ul style="list-style-type: none">✓ ESCO事業期間10年(R6からR15)において維持管理経費は6億円の削減。✓ 事業終了後から次期更新までの5年間は12億円の削減見込✓ 年間の電気代が1億4千万円削減、二酸化炭素排出量が69%削減と大幅な効果
評価	<ul style="list-style-type: none">○電気代が高騰する中で、設計から維持管理まで包括的な事業を行うことで、事業費を削減費から捻出することができ、効果が大きい。○事業完了後に大きな費用削減に結びつく長期的な視点に立った事業。○節減による財政効果や省エネ効果を市民に還元できる取組。○CO2削減にも繋がり、環境対策になるとともに、防犯対策にも寄与している。○庁内の維持管理費削減の機運向上も期待できる。

ESCO事業

省エネルギー改修にかかるすべての経費を光熱水費（電気料）と現状の維持管理経費の削減で賄うもので、設計、施工、維持管理のほか省エネルギー効果の検証を含めた包括的なサービスを提供する事業。

導入イメージ





GOOD KAIZEN AWARD 2022 【経費削減部門】

取組名 (所属)	『トライアルパーク蒲原のSDGsにつながるコスト削減』 (道路計画課 企画係)
問題点 課題	【問題】 ●施設整備において、建築資材の高騰などにより建築・設備工事に予算が割かれてしまったため、外交工事の内容を見直し、コスト削減する必要が生じた ●先進的な取組みであるため、コスト削減だけでなく、施設整備の段階で、行政が先駆けて新たなチャレンジを仕掛け、トライアルの手本となる必要がある
取組内容	KAIZEN ①廃棄されるものの活用で環境貢献 ②企業版ふるさと納税で空間の高質化 【内容】 ①放任竹林対策として市民団体が伐採、破碎、廃棄している「竹チップ」を頂いて、舗装材として活用 ②静岡県が活用に苦慮する田子の浦港の浚渫処理土「脱水ケーキ」を芝の植生基盤材として活用 ③「蒲原、静岡を元気にしたい」と応援してくれる企業様からの寄附金を活用
取組結果 ・ 主な効果	✓ 廃棄されるものの活用でSDGsにつながるとともに、放任竹林・脱水ケーキの活用の啓発に寄与 ✓ 大幅なコスト削減(竹チップ舗装:約17,000千円 脱水ケーキ:10,000千円) ✓ 寄附募集の過程で、本市及び本事業をアピールできた ✓ 寄附金は、休憩デッキの整備に活用し、トライアル空間を高質化
評価	○今後の土木工事に活用できる。 ○行政のみではなく、企業や市民団体等、他の団体を巻き込んで事業を進められている。 ○SDGs推進及びコスト削減効果が生じており、企業版ふるさと納税の活用との相乗効果で事業全体として大きな可能性を感じる。 ○今後の各事業における企業版ふるさと納税の拡大が期待できる。 ○誰でも”トライ”できる(遊びにもこれる)場所で、SDGs(環境対策)やコスト削減をPRできる。

園路舗装に竹チップ使用



芝生の植生基盤材に脱水ケーキ使用



企業版ふるさと納税結果（申込順）

①株式会社サイバーレコード（熊本市）	100千円
②高田機工株式会社（大阪市）	500千円
③平岩塗装株式会社（東京都大田区）	2,500千円
④リョービ株式会社（広島県府中市）	5,000千円
⑤株式会社クラディオ（東京都中央区）	1,000千円
⑥株式会社アイ・テック グループ企業	10,000千円
⑦株式会社ユピテル（東京都港区）	1,000千円
⑧日本軽金属株式会社（東京都港区）	5,000千円
合計	25,100千円





GOOD KAIZEN AWARD 2022【情報発信部門】

<p>取組名 (所属)</p>	<p>『井川自然の家deおもてなし』 (教育総務課 南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家)</p>
<p>問題点 課題 取組内容</p>	<p>【問題】 ● 県道からの誘導看板の表示も素朴であり、分かりにくい。 ● 自然の家の魅力である星空観察の際に利用できる資料が少ない、園内散策マップの活用度が低い ● 雨天時等館内で楽しめるプログラムが少なく、本所で薦めるSDGsを意識させるプログラムがない KAIZEN 看板のリニューアルや必要な資料の作成により、利用環境の改善、充実</p> <p>【内容】 ① 職員が手作りのウェルカムボード作成、 所内入口の表示や県道からの案内看板をリニューアル ② 星空観察用の資料を作成、園内散策マップと一緒に配付 ③ SDGsの取り組みを意識できるすごろくや塗り絵などを作成し、 利用者の塗り絵を館内に掲示</p> <div data-bbox="1518 703 1648 951" data-label="Image"></div> <div data-bbox="1671 695 2024 951" data-label="Image"></div>
<p>取組結果 ・ 主な効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 看板をリニューアルしてわかりやすくなった他、ウォークラリーやハイキング時も迷いにくくなった ✓ 利用者の星空や星座等の知識の向上、雨天時の利用者の滞在時間を充実 ✓ 水を大事に使う、食事の食べ残しが減るなど、利用者のSDGsの意識向上
<p>評価</p>	<p>○ 情報発信＝「来てもらうための周知」になりがちだが、来訪者の情報を深めるという視点がよい。 ○ 市の一方的な情報発信ではなく、来訪者の満足度を上げ、その人が他者に情報発信することで集客を増やしていくというのが継続性という観点からも評価できる。 ○ 職員の利用者に対するおもてなしの心が伝わる、温かみを感じられる改善。 ○ 多額の予算を投じることなく中山間地域へ人を呼び込む効果、オクシズの振興、移住のPRにもつながっている。</p>



GOOD KAIZEN AWARD 2022【情報発信部門】

取組名 (所属)	『脱炭素先行地域の選定を勝ち取り、財源確保及び税込等を増加』 (環境創造課 グリーン政策推進室)
問題点 課題	【問題】 ●「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ」達成には、行政、市民・事業者一体で取り組む必要がある。 ●今後は、単に温室効果ガスを削減するための施策を講じるだけでなく、本市の求心力の強化や、国全体の温室効果ガス排出量の削減に繋がる他都市を牽引するための取組が必要 KAIZEN 脱炭素先行地域として発信、交付金を活用した民間投資の促進
取組内容	【内容】 ●脱炭素先行地域に本市が選定され、交付金を呼び水として民間企業の投資を促す ●令和4年10月、事業者、金融機関などからなる「脱炭素先行地域推進コンソーシアム」を設立、先行地域の整備促進、SNSを通じた情報発信を実施
取組結果 主な効果	✓ 報道等に大きく取り上げられ、環境先進都市として発信でき、企業からの問い合わせも増加 ✓ 脱炭素先行地域に選定により、交付金という新たな財源を確保 ✓ 約80億円の民間企業の累積投資が見込めるほか、設備導入に伴う固定資産税の増加も期待 ✓ 新たなビジネスモデルを構築し、事業者の活動の幅を広げ、収益を上げ法人税の増加も期待
評価	○脱炭素先行地域に選定されたことにより、報道等に大きく取り上げられ、自治体のみならず企業の関心を高められたことは大きな情報発信効果。 ○県内唯一の選定という情報発信のみで終わることなく、さらなる公民連携の強化や民間投資に繋げる、という好循環が認められる点が優れている。 ○脱炭素の取組強化だけでなく、市内の企業の発展や、税込の増加、環境先進都市として本市のブランディング、新たな地域産業の創出等プラスの効果が多く期待できる。